



第4章：農業

4.6 農藥管理

4.6.5 - 4.6.7

4.6.5-4.6.7 農薬管理

この章では、農薬の適切な準備と使用に焦点を当てた要件を対象とします。

この要件はすべての農場に適用されます。



番号	基本要件	団体認証			個別認証
		小規模農場	大規模農場	団体責任者	小規模/大規模
4.6.5	農薬の準備と使用に際しては、特に以下の点に関して、ラベル製品安全データシート（MSDS）、セキュリティタグの記載、もしくは国の公的機関が<u>能力のある技術者</u>の推奨に従う。 • 散布領域までの安全な輸送 • 正しい投与量 • 適切な機器と技術の使用 • 適切な気象条件 • <u>立ち入り制限時間（REI）</u>の配慮（現地の言語で書かれた警告標識、影響を受ける可能性のある人やコミュニティへの事前通知など） 他に情報がない場合は、WHOクラスII製品の最小散布間隔制限は48時間、その他の製品は12時間とする。立ち入り制限時間が異なる製品を複数同時に使用する場合は、最も長い間隔に従う。 量と散布量の計算方法を見直して調整することで、余剰混合物と農薬の過剰使用を減らす。 製品の製品安全データシート（MSDS）、ラベル、セキュリティタグ、または公的機関の規制で規定された<u>農薬散布から収穫までの間隔</u>を遵守する。農薬散布から収穫までの間隔が異なる製品を複数同時に使用した場合は、最も長い間隔に従う。	✓	✓	✓	✓
4.6.6	<u>農薬の飛散</u>や他の方法による農薬汚染を防止するための仕組みが整えられている。これには、散布区域から水生・陸生のすべての生態系、およびインフラストラクチャを含む他の領域へと及ぶ農薬汚染が含まれる。 これらの仕組みには、農作物以外の<u>植生防壁</u>、<u>農薬散布禁止地帯</u>、その他の効果的な手順が含まれる。	✓	✓	✓	✓
4.6.7	空中散布は、付属文書農業に概説されている条件の下でのみ許可される。 参考資料：「A-07-SCRL-B-FA 付属文書 農業」	✓	✓	✓	✓

4.6.5

散布区域までの安全な輸送

ある生産者団体の大規模農場の管理者であるジェームスは、散布区域までの農薬の輸送が、ラベル、製品安全データシート（MSDS）、またはセキュリティタグに従って行われることを確認する必要があります。

この情報が確認できない場合は、国の公的機関または能力のある技術者の推奨に従う必要があります。



4.6.5

正しい投与量、量、装置、散布技術、気象条件に注意を払うこと。

ラベル、製品安全データシート（MSDS）、またはセキュリティタグの次に、ジェームスは次のことを確認する必要があります。

- 正しい投与量と散布量（計算方法を見直して調整することで、余剰混合物と農薬の過剰使用を減らす）
- 適切な機器と散布方法
- 散布に適した気象条件

日差しが強い時、雨が降っている時、風が強い時の使用は避けなければなりません。



4.6.5

立ち入り制限期間 (REI)



要件 4.6.5 の一環として、ジェームス も 立入制限期間 (REI) を遵守する必要があります。

これは、適切な防護用具を着用しない限り、農薬が散布された圃場に誰も立ち入ることができない期間を指します。

この情報は、次の方法で伝達する必要があります。

- 関係者やコミュニティに事前に通知します。
- 警告標識を現地の言語で表示します。

ラベル、製品安全データシート (MSDS)、またはセキュリティ REIに関する情報が含まれていない場合

- WHOクラス2に分類される農薬の場合、48時間
- 他の製品の場合は12時間



4.6.5

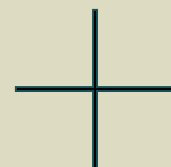
待期期間



最後に、ジェームスは製品のラベル、製品安全データシート（MSDS）、またはセキュリティタグに規定されている待期期間を尊重する必要があります。

待期期間とは、農薬散布後の待期期間のことです。ジェームスはこの期間を過ぎてから農作物を収穫できるまで待たなければなりません。

待期期間が異なる製品を複数同時に使用した場合は、最も長い間隔に従います。



4.6.6

汚染防止のメカニズム



ジェームスは農薬による汚染を回避するための仕組みを構築し、維持しなければなりません。

農薬の飛散やその他の汚染を回避するために、彼にできることは何でしょうか。

- **農薬散布禁止地帯を設定することです。**これらの地帯では、病害虫は非化学的方法で防除されます。

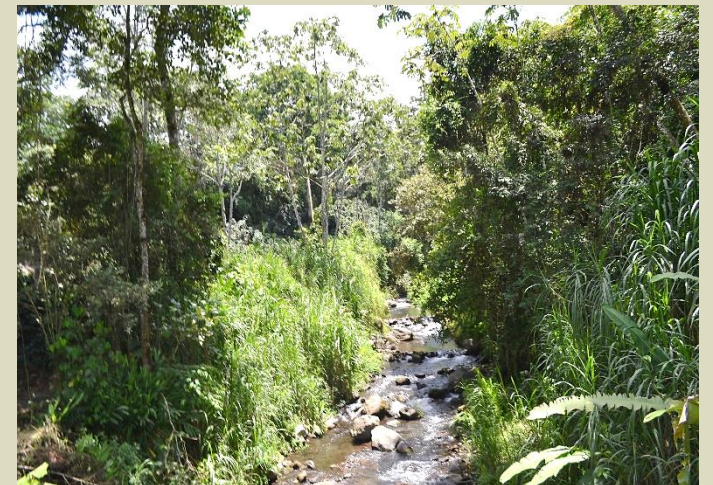


4.6.6

また、農薬の飛散をとらえることができる恒久的な葉を持つ低木や樹木で植生防壁を設けることもできます。低木と樹木は農作物の高さと同じ高さでなければなりません。



水源を農薬の飛散から保護するため、河畔緩衝帯を設置できます。



ケーススタディ

例を見てみましょう。



ジェームスはパイナップル農園を所有していて、農作物よりも高い植生防壁を設けています。しかし、農場には農薬散布禁止地帯は設定されていません。彼の散布業者は農作物全体に シペルメトリンという殺虫剤を散布しました。



?

この農場は、要件4.6.6を遵守していますか？

次のページに進む前に答えを考えてください。

ケーススタディ - 回答

答えは「はい」です。この農場には農薬散布禁止地帯は設定されていませんが、**農薬の飛散を効果的に防止できる植生防壁が設置されています**。したがって、要件を満たしています。



4.6.7

空中散布

空中散布は、付属文書農業に概説されている条件の下でのみ許可されます。



参照：付属文書 農業



**RAINFOREST
ALLIANCE**

rainforest-alliance.org